

一般質問

各種募金、協力金、 会費等の見直しについて

自治会での各種集金は

質問 毎年、年度初めに、強制的に集められる各種募金、協力金、会費等（交通安全会費300円、日本赤十字社費500円、赤い羽根募金400円、緑の羽根募金50円、環境美化推進協議会費600円、社会福祉協議会協力金500円、地

須田 勝 議員

区体育協会協力金500円、更生保護募金200円、歳末助け合い募金300円）時代の流れに逆行し何十年と変わらない状態、今こそ見直しの考えは。

答弁 募金や会費につきましては、各種団体における募金の主旨や会の活動に賛同し、本人の同意のもとに

お金をお預かりし、その団体に自治会を通じて納めるものであり、強制的に集金するものではないと考えます。

また、見直しについては、地域の実情やそれぞれの団体の活動内容等により、統一することは困難であると考えます。

PTA準会員費、体育後援会準会員費を市の補助金で賄えないか

質問 児童、生徒数の減少でPTA活動、体育後援会

活動が危ぶまれている。津久田小、南雲小、赤城北中で行っている準会員費を市の補助金で賄えないか。

答弁 準会員費については、地域の温かい支援の下に継続してきておりますが、各学校の児童生徒数の状況もまちまちであり、これらの学校だけに補助金を支給することの不公平感やすべての学校に一律に支給することの財政的な負担を考えると、補助金は難しいと考えます。

鉄道施設に対する 市の考え方について

中澤 広行 議員

質問 JR渋川駅のホーム駅名看板に（伊香保温泉口）と追記できないか。

答弁 JR渋川駅では、平成20年度に駅舎を改修する計画と聞いております。ご質問のホーム駅名看板への追記につきましては、強く要望していきます。

質問 渋川駅前活性化施策

として、チンチン電車（伊香保軌道線）の車両を復元して渋川駅前に。観光施策として伊香保温泉にそれぞれ展示できないか。

答弁 渋川駅前は、現在のまちづくり交付金事業対象区域外のため活用できません。伊香保地区への復元は、第2期事業で検討したいと考えています。

質問 JR八木原駅東口の設置及び（仮称）北渋川駅の設置については、財政的に困難ということは聞いている。今後、設置するには地区の人口増を図ることなど具体的な市の施策が重要と考えるが、その計画を推進するつもりはないか。

答弁 この問題については、利用者の増加が不可欠でありますので、観光ネットワーク、道路・橋りょう整備、企業誘致の調査などを含め、総合的に検討していきたいと考えています。

質問 赤城地区前田踏切は改良、規制解除ともに無理ならば、現在の状態でできることとして東側の市道改良が住民の要望にこたえることになると思うが。

答弁 踏切及び前後の市道が一体的に整備されない限り、対応できない旨を地元回答しました。東側の市道の改良については、今後、地元の協力をいただきながら検討をしていきます。



昔、懐かしいチンチン電車



赤い羽根・緑の羽根募金ポスター

一般質問



J R 祖母島駅とその周辺

市民にやさしい市役所を

安力川信之 議員

市民目線で窓口サービスを

質問 待ち時間短縮の番号札発券機や証明書自動交付機の導入、コールセンター、フロアマネージャー導入で市民にやさしい窓口サービスを。

答弁 番号札発券機は今年度設置します。自動交付機については、費用面や多機

能性を考慮し、総務省が今年度行うコンビニエンス

ストアでの住民票等交付実証実験の結果も視野に入れて検討したい。フロアマネージャー導入については、市民に対して常に親切丁寧な窓口対応を心がけていますが、市民総合案内という観点から全庁的に研究します。

コールセンターの導入については、今後研究したい。教育向上の取り組みは

質問 学校・家庭・地域三者連携推進協議会のあり方は。また、学校耐震化の現状と今後の取り組みは。

答弁 学校・家庭・地域がお互いに連携し合い、具体的な取り組みを通して、未来の渋川を担う子供たちを育てられるように協力体制を作りたいと考えます。耐震化は8年での完了を目標に計画していましたが、

改正された地震防災対策特別措置法に沿って計画の再検討をしたいと考えます。

質問 教師の多忙対策や、学校支援など教育環境向上についての見解は。

答弁 新たな教育課題への対応など厳しい状況ですが、会議や研修の見直し、業務の効率化・IT化の促進、部活動の適正化、校内での応援・協力体制の推進等を行い、教師が子供とふれあう時間を確保していきたいと考えます。

橋りよう建設の効果・後期高齢者医療制度の影響について

平方 嗣世 議員

質問 国道・県道の崩落により祖母島、村上地区は孤立する。吾妻川沿いに祖母島、川島は平坦な土地で、

水も電力もある。防災、企業誘致、地域間交流等、小野子祖母島間の橋りよう建設には大きな効果がある。認識と考える。

答弁 本市は河川により市

域が分断されているため、新市の一体性を確立するうえで、橋りようの担う役割は大きく、総合計画では、道路・橋りよう整備の推進を重点プロジェクトの一つに位置付けています。安全安心の視点からの評価では、崩落危険箇所が最も多い同地区が、災害時の

代替ルートとして最も高い評価を受けており、多大な効果が期待できると考えます。また、形状や面積の点で企業誘致の候補地区として検討に値しますが、市内の土地の活用状況、企業誘致の各種情報等総合的に調査研究していきます。

質問 市の主体事業3橋については早期に同時着工すべきである。その可能性は。

答弁 3橋同時着工については、財政状況から判断して難しい状況です。今後は、

道路・橋りよう整備計画基礎調査における整備優先性を踏まえた整備方針を基本としていきたいと考えます。

質問 75歳以上の人間ドックに助成金の考えは。また、特定健診等に混乱は生じなかったか。

答弁 後期高齢者を対象とする人間ドック助成は、まずは保険者である広域連合に対して実施を働きかけます。特定健診は、市民の利便と周知を図り、円滑な事業の実施に努めます。

新たに設置された番号札発券機

